
大里郡岡部町

熊野 / 新田

県道針ヶ谷岡線関係埋蔵文化財発掘調査報告

2000

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



熊野遺跡B区航空写真



新田遺跡A区航空写真



熊野遺跡B区出土遺物



熊野遺跡B区出土遺物



熊野遺跡B区出土陶文土器



熊野遺跡B区出土土器



熊野遺跡B区出土土器

序

埼玉県大里郡岡部町は、丘陵、台地、低地などの起伏に富んだ地形をもち、緑豊かな自然環境に恵まれ、先人たちの残した文化遺産が数多くあります。中でも国指定重要文化財の緑軸手付瓶を出土した西浦北遺跡や和同開珎を出土した内出遺跡、榛沢郡衙の正倉跡と推定される中宿古代倉庫群は県指定史跡であり、平安時代末期から鎌倉時代には岡部六弥太忠澄などの武蔵武士が活躍した地でもあります。

近年、国道17号バイパスや道の駅「おかべ」の建設、岡部駅北部の岡中央土地区画整理事業など開発が進み道路交通網の整備が進められ、県道針ヶ谷岡線の建設が計画されました。この路線は、大里郡岡部町を南北に縦断する幹線道路として整備され、岡部町針ヶ谷から新田を結出し、岡に至る地域住民の生活に密着した道路として重要性が高まる県道です。

道路建設予定地内には、周知の埋蔵文化財として熊野遺跡、新田遺跡が所在します。そこで、これらの埋蔵文化財の取り扱いは、関係機関で慎重に協議を重ねられ、埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が記録保存のための発掘調査を実施することになりました。

遺跡の所在する岡部町において、これまで当事業団では、砂田前遺跡、菅原遺跡、岡部条里遺跡、熊野遺跡A区、沖田遺跡、宮西遺跡などの遺跡の発掘調査・整理報告書の発行、遺跡見学会をおこなってきました。今回報告する熊野遺跡B区と新田遺跡は、隣接した

古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての大規模集落跡です。調査の結果、数多くの竪穴住居跡や孤立柱建物跡が発見されました。中宿古代倉庫群に近接する熊野遺跡は、遺跡の中心を古代榛沢郡の役所跡と推定されており、調査した部分は、役所の周辺地域に広がる集落域と考えられます。

竪穴住居跡からは当時の人々が日常使用していた土師器や須恵器が出土し、特に、銅碗を模倣したと考えられる内面に螺旋や放射状の磨きを施した、土師器暗文坏も多く発見され、当地域の様相を知る手がかりとなりました。また、田畑を開墾する鉄製の鋤先や武器としての鉄鎌などが出土し、当時の人々の社会や生活を考える上で大変貴重な資料が得られました。

これらの成果をまとめた本書が、埋蔵文化財保護の基礎資料として、また、学術研究や教育・普及の資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで御指導、御協力をいただいた埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県土木部道路建設課、同熊谷土木事務所、岡部町教育委員会ならびに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例言

1. 本書は、埼玉県大里郡岡部町に所在する熊野遺跡（B区）および、新田遺跡（A・B区）の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届けに対する指示通知は、以下のとおりである。
 - (1) 熊野遺跡（B区）（KMNB区）
大里郡岡部町大字岡字熊野2912番地3号他
平成7年1月5日付け 教文第2-150号
 - (2) 熊野遺跡第4次（B区）（KMNB区）
大里郡岡部町大字岡字熊野2927番地他
平成8年10月23日付け 教文第2-140号
 - (3) 新田遺跡（A区）（SNDNA区）
大里郡岡部町大字岡字新田2568番地1号他
平成7年9月8日付け 教文第2-105号
 - (4) 新田遺跡第2次（B区）（SNDNB区）
大里郡岡部町大字岡字新田2602番地4号他
平成8年10月23日付け 教文第2-139号
3. 発掘調査は、県道針ヶ谷岡線（岡部町地内）建設事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県土木部道路建設課の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査については、次のとおりである。平成6年度は、熊野遺跡B区を浅野晴樹・上野真由美が平成6年11月1日から平成7年1月31日まで実施した。平成7年度は、新田遺跡A区を富田和夫・栗岡潤が平成7年9月1日から同年9月30日まで実施した。平成8年度は、新田遺跡第2次（B区）を磯崎一・富田和夫が平成8年10月1日から同年10月31日までと、熊野遺跡（B区）を同じく両名が平成8年11月1日から平成9年1月31日まで実施した。
整理報告書作成事業は、赤熊浩一が担当し、平成11年7月1日から平成12年3月31日まで実施した。
5. 遺跡の基準点測量、航空写真、および航空写真測量は株式会社ムサシノに委託し、また、火山灰の自然科学分析は株式会社占環境研究所に委託し、赤色顔料の成分分析は株式会社バレオ・ラボに委託した。遺物の巻頭カラー写真は小川忠博氏に委託した。
6. 発掘調査時の遺構写真撮影は担当者が行った。遺物の撮影は大量道則が行った。
7. 出土品の整理・図版の作成は真野目洋子の協力を得て、赤熊が行い、鉄製品は瀧瀬芳之が、石器は小林あいが、鉄製品のX線写真は野中仁が行った。本文の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、Ⅱ-2は真野目洋子が、それ以外は赤熊が行った。
8. 本書の編集は、赤熊が行った。
9. 本書にかかる資料は平成12年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが保管する。
10. 本書の作成にあたり、下記の方々から御教示・御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）
恋河内昭彦、小林 高、鈴木徳雄、鈴木秀雄、
鳥羽政之、平田重之、宮本直樹、岡部町教育委員会、埼玉県立埋蔵文化財センター

凡例

1. 本書の遺跡全体図におけるX・Yの座標数値は、国土標準平面直角座標第Ⅱ系に基づく座標数値を示し、方位は、全て座標北を示している。
2. 熊野遺跡、新田遺跡の調査におけるグリッドは座標値X=23800m、Y=-53500mを原点とし、10m×10m方眼で設定した。グリッドの名称は方眼の北西隅の杭番号であり、南北、東西方向とも数値で表記した。

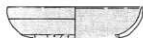
測点名 グリッド	X座標 M	Y座標 m	緯度 ° ′ ″	経度 ° ′ ″
熊野遺跡 B区67-10	23130m	-53400m	36-12- 25.2756	139-14- 21.8190
新田遺跡 B区76-7	23040m	-53430m	36-12- 22.3493	139-14- 20.6399

3. 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下のとおりであるが、その他のものについてはスケールで示している。

遺構図	住居跡・溝跡・土坑……………1/60 カマド……………1/30
遺物	須恵器・土師器・鉄器……………1/4 縄文時代の石器……………1/3



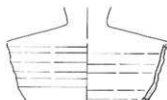
土師器



黒色処理



須恵器



灰釉陶器

4. 遺構断面図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
5. 遺物観察表は次のとおりである。
 - ・口径、器高、底径は、cmを単位とする。
 - ・()内の数値は推定値である。
 - ・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。A—白色粒子、B—角閃石、C—石英、D—雲母、E—長石、F—酸化鉄粒子・赤色粒子・黒色粒子、針—白色針状物質、片—片岩
 - ・焼成は良好、普通、不良の3段階に分けた。
 - ・残存率は図示した器形に対し、5%単位で示した。
 - ・須恵器は肉眼観察により胎土、形態、器壁、焼成などの特徴から判断し産地を特定した。
6. 遺構図・遺物分布図中に示したドットは出土位置及び接合関係を示し、ナンバーは遺物実測図のそれと一致する。またドットの種類は以下のとおりである。

● 土師器 ▲ 須恵器 ★ その他

7. 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/25000地形図、寄居町都市計画図を改図・転載したものである。



硬化面



粘土範囲



被熱範囲



柱痕



地山

目次

口絵
序
例言
凡例
目次

I 発掘調査の概要	1	6. 柱穴	145
1. 発掘調査に至る経過	1	7. 性格不明遺構	146
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	8. 井戸跡	148
3. 発掘調査、整理・報告書作成の組織	4	9. その他	148
II 遺跡の立地と環境	5	V 新田遺跡 (A区)	151
1. 地理的環境	5	1. 竪穴住居跡	153
2. 歴史的環境	5	2. 柱穴	184
III 遺跡の概要	11	VI 新田遺跡 (B区)	185
1. 調査の方法	11	1. 竪穴住居跡	185
2. 基本層序	11	2. 掘立柱建物跡	203
3. 遺跡の概要	11	3. 土壇	203
IV 熊野遺跡 (B区)	13	4. 柱穴	206
1. 竪穴住居跡	15	VII 結語	210
2. 掘立柱建物跡	111	1. 古代榛沢郡と熊野遺跡	
3. 欄列跡	128	一律令的集落構造の変化について—	210
4. 溝跡	131	2. 大型甕の問題	219
5. 土壇	139		

附編

挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形	5	第4図 熊野遺跡	10
第2図 周辺の遺跡	6	第5図 熊野遺跡基本土層	11
第3図 周辺遺跡分布図	8	第6図 熊野遺跡B区・新田遺跡グリッド網図	12
熊野遺跡B区			
第7図 熊野遺跡B区全体図	14	第38図 第15号住居跡・カマド	49
第8図 第1号住居跡	15	第39図 第15号住居跡出土遺物	50
第9図 第1号住居跡出土遺物	16	第40図 第16・21号住居跡	51
第10図 第2号住居跡・カマド・遺物分布図	17	第41図 第16号住居跡カマド	51
第11図 第2号住居跡出土遺物	18	第42図 第16号住居跡出土遺物(1)	52
第12図 第3・10号住居跡・カマド	20	第43図 第16号住居跡出土遺物(2)	53
第13図 第3号住居跡出土遺物	21	第44図 第21号住居跡出土遺物	55
第14図 第10号住居跡出土遺物	22	第45図 第18号住居跡・カマド	56
第15図 第4・6・17号住居跡・カマド	24	第46図 第18号住居跡出土遺物(1)	57
第16図 第4号住居跡出土遺物(1)	25	第47図 第18号住居跡出土遺物(2)	58
第17図 第4号住居跡出土遺物(2)	26	第48図 第19号住居跡	60
第18図 第6号住居跡出土遺物(1)	28	第49図 第19号住居跡カマド	61
第19図 第6号住居跡出土遺物(2)	29	第50図 第19号住居跡出土遺物(1)	62
第20図 第17号住居跡出土遺物	30	第51図 第19号住居跡出土遺物(2)	63
第21図 第5号住居跡	31	第52図 第20号住居跡出土遺物	63
第22図 第5号住居跡カマド	32	第53図 第20号住居跡	64
第23図 第5号住居跡出土遺物(1)	33	第54図 第22号住居跡	65
第24図 第5号住居跡出土遺物(2)	34	第55図 第22号住居跡カマド	65
第25図 第7号住居跡・カマド	36	第56図 第22号住居跡出土遺物(1)	66
第26図 第7号住居跡出土遺物(1)	37	第57図 第22号住居跡出土遺物(2)	67
第27図 第7号住居跡出土遺物(2)	38	第58図 第23・24号住居跡	68
第28図 第8号住居跡	40	第59図 第23・24号住居跡出土遺物(1)	69
第29図 第8号住居跡出土遺物	41	第60図 第23・24号住居跡出土遺物(2)	70
第30図 第9号住居跡・出土遺物	42	第61図 第23・24号住居跡出土遺物(3)	71
第31図 第11号住居跡・出土遺物	43	第62図 第25号住居跡	74
第32図 第12号住居跡・カマド	45	第63図 第25号住居跡出土遺物(1)	75
第33図 第12号住居跡出土遺物	46	第64図 第25号住居跡出土遺物(2)	76
第34図 第13号住居跡	46	第65図 第26号住居跡・掘り方	78
第35図 第13号住居跡出土遺物	47	第66図 第26号住居跡出土遺物	79
第36図 第14号住居跡出土遺物	47	第67図 第27号住居跡・掘り方・カマド	80
第37図 第14号住居跡・カマド	48	第68図 第27号住居跡出土遺物	81

第69区	第28号住居跡・掘り方	83	第102区	第7号掘立柱建物跡	118
第70区	第28号住居跡出土遺物(1)	83	第103区	第8号掘立柱建物跡	119
第71区	第28号住居跡出土遺物(2)	84	第104区	第9号掘立柱建物跡	120
第72区	第29号住居跡カマド	85	第105区	第10号掘立柱建物跡	121
第73区	第29・30号住居跡	86	第106区	第11号掘立柱建物跡	122
第74区	第29号住居跡出土遺物	87	第107区	第12号掘立柱建物跡	123
第75区	第30号住居跡カマド	88	第108区	第14号掘立柱建物跡	124
第76区	第30号住居跡出土遺物	89	第109区	第15号掘立柱建物跡	124
第77区	第31号住居跡・カマド	91	第110区	第16号掘立柱建物跡	125
第78区	第31号住居跡出土遺物	92	第111区	第17号掘立柱建物跡	126
第79区	第32号住居跡・掘り方	94	第112区	第18号掘立柱建物跡	127
第80区	第32号住居跡出土遺物	94	第113区	掘立柱建物跡出土遺物	128
第81区	第33号住居跡	95	第114区	第1・2号欄列跡	129
第82区	第33号住居跡出土遺物	96	第115区	第3号欄列跡	130
第83区	第34号住居跡・掘り方	97	第116区	第1・2・6号溝跡	132
第84区	第34号住居跡カマド	98	第117区	第3・4・5・7・11号溝跡	133
第85区	第34号住居跡出土遺物	98	第118区	第8・9・10・12号溝跡(1)	134
第86区	第35号住居跡	100	第119区	第8・9・10・12号溝跡(2)	135
第87区	第35号住居跡掘り方・カマド	101	第120区	第12・13・14・15・16・17号溝跡	136
第88区	第35号住居跡出土遺物(1)	102	第121区	溝跡出土遺物	137
第89区	第35号住居跡出土遺物(2)	103	第122区	溝跡・土城全体図	138
第90区	第36号住居跡・掘り方	105	第123区	第2～11・14・51号土城	140
第91区	第36号住居跡カマド	106	第124区	第12～13・15～21号土城	141
第92区	第36号住居跡出土遺物	107	第125区	第22・25・27～37号土城	142
第93区	第37号住居跡	108	第126区	第38～40・42～50号土城	143
第94区	第37号住居跡出土遺物	109	第127区	土城出土遺物	145
第95区	第38号住居跡	110	第128区	ビット出土遺物	146
第96区	第1号掘立柱建物跡	112	第129区	性格不明遺構	146
第97区	第2号掘立柱建物跡	113	第130区	性格不明遺構出土遺物	147
第98区	第3号掘立柱建物跡	114	第131区	第1号井戸跡	148
第99区	第4号掘立柱建物跡	115	第132区	中世の出土遺物	148
第100区	第5号掘立柱建物跡	116	第133区	グリッド出土・表面採集遺物	149
第101区	第6号掘立柱建物跡	117			
新田遺跡A区					
第134区	新田遺跡A区全体図	152	第137区	第2号住居跡カマド	155
第135区	第1号住居跡	153	第138区	第2号住居跡	156
第136区	第1号住居跡出土遺物	154	第139区	第2号住居跡出土遺物(1)	157

第140図	第2号住居跡出土遺物(2) ……………	158
第141図	第3号住居跡 ……………	160
第142図	第3号住居跡カマドNo.1・2 ……………	161
第143図	第3号住居跡カマドNo.3 ……………	162
第144図	第3号住居跡出土遺物(1) ……………	162
第145図	第3号住居跡出土遺物(2) ……………	163
第146図	第3号住居跡出土遺物(3) ……………	164
第147図	第4・5号住居跡・出土遺物 ……………	166
第148図	第5号住居跡出土遺物 ……………	167
第149図	第6号住居跡・カマド ……………	169
第150図	第6号住居跡出土遺物(1) ……………	170
第151図	第6号住居跡出土遺物(2) ……………	171
第152図	第7号住居跡 ……………	172
第153図	第7号住居跡出土遺物 ……………	173

新田遺跡B区

第167図	新田遺跡B区全体図 ……………	186
第168図	第1号住居跡 ……………	187
第168a図	第1号住居跡掘り方 ……………	188
第170図	第1号住居跡カマド ……………	189
第171図	第1号住居跡出土遺物 ……………	190
第172図	第2号住居跡 ……………	191
第173a図	第2号住居跡掘り方 ……………	192
第174図	第2号住居跡カマド ……………	193
第175図	第2号住居跡出土遺物 ……………	194
第176a図	第3・7号住居跡・掘り方 ……………	196
第177図	第3号住居跡出土遺物 ……………	197

第154図	第8号住居跡・カマド ……………	174
第155図	第8号住居跡出土遺物 ……………	175
第156図	第9号住居跡 ……………	176
第157図	第9号住居跡出土遺物 ……………	177
第158図	第10号住居跡 ……………	178
第159図	第10号住居跡カマド ……………	179
第160図	第10号住居跡出土遺物 ……………	180
第161図	第11号住居跡 ……………	182
第162図	第11号住居跡出土遺物 ……………	182
第163a図	第12号住居跡・カマド ……………	183
第164図	第12号住居跡出土遺物 ……………	183
第165図	柱穴 ……………	184
第166図	柱穴出土遺物 ……………	184

第178図	第4号住居跡・出土遺物 ……………	198
第179図	第5号住居跡・出土遺物 ……………	199
第180図	第6号住居跡 ……………	200
第181図	第8号住居跡・掘り方・出土遺物 ……………	202
第182a図	第1号掘立柱建物跡 ……………	203
第182b図	土壌出土遺物 ……………	203
第184a図	第1～11・14号土壌 ……………	204
第184b図	第12・13・15～30号土壌 ……………	205
第185図	柱穴(1) ……………	207
第187図	柱穴(2) ……………	208

表 目 次

熊野遺跡B区

第1表	第1号住居跡出土遺物観察表 ……………	16
第2表	第1号住居跡出土遺物計量表 ……………	16
第3表	第2号住居跡出土遺物観察表 ……………	17・18
第4表	第2号住居跡出土遺物計量表 ……………	19
第5表	第3号住居跡出土遺物観察表 ……………	21
第6表	第3号住居跡出土遺物計量表 ……………	21
第7表	第10号住居跡出土遺物観察表 ……………	22

第8表	第10号住居跡出土遺物計量表 ……………	22
第9表	第4号住居跡出土遺物計量表 ……………	26
第10表	第4号住居跡カマド出土遺物計量表 ……………	26
第11表	第4号住居跡出土遺物観察表 ……………	27
第12表	第6号住居跡出土遺物観察表 ……………	29
第13表	第6号住居跡出土遺物計量表 ……………	29
第14表	第17号住居跡出土遺物観察表 ……………	30

第15表	第17号住居跡出土遺物計量表	30	第52表	第27号住居跡出土遺物觀察表	82
第16表	第5号住居跡出土遺物觀察表	32·35	第53表	第27号住居跡出土遺物計量表	82
第17表	第5号住居跡出土遺物計量表	35	第54表	第28号住居跡出土遺物計量表	82
第18表	第7号住居跡出土遺物觀察表	39	第55表	第28号住居跡出土遺物觀察表	84·85
第19表	第7号住居跡出土遺物計量表	39	第56表	第29号住居跡出土遺物觀察表	88
第20表	第8号住居跡出土遺物觀察表	40	第57表	第30号住居跡出土遺物觀察表	89
第21表	第8号住居跡出土遺物計量表	41	第58表	第29号住居跡出土遺物計量表	90
第22表	第9号住居跡出土遺物觀察表	42	第59表	第30号住居跡出土遺物計量表	90
第23表	第9号住居跡出土遺物計量表	42	第60表	第31号住居跡出土遺物計量表	90
第24表	第11号住居跡出土遺物觀察表	44	第61表	第31号住居跡出土遺物觀察表	93
第25表	第11号住居跡出土遺物計量表	44	第62表	第32号住居跡出土遺物觀察表	93
第26表	第12号住居跡出土遺物觀察表	44	第63表	第32号住居跡出土遺物計量表	95
第27表	第12号住居跡出土遺物計量表	44	第64表	第33号住居跡出土遺物觀察表	96
第28表	第13号住居跡出土遺物觀察表	46	第65表	第33号住居跡出土遺物計量表	96
第29表	第13号住居跡出土遺物計量表	47	第66表	第34号住居跡出土遺物計量表	96
第30表	第14号住居跡出土遺物觀察表	47	第67表	第34号住居跡出土遺物觀察表	99
第31表	第14号住居跡出土遺物計量表	48	第68表	第35号住居跡出土遺物計量表	99
第32表	第15号住居跡出土遺物觀察表	50	第69表	第35号住居跡出土遺物觀察表	100·104
第33表	第15号住居跡出土遺物計量表	50	第70表	第36号住居跡出土遺物觀察表	106
第34表	第16号住居跡出土遺物觀察表	54	第71表	第36号住居跡出土遺物計量表	108
第35表	第16号住居跡出土遺物計量表	55	第72表	第37号住居跡出土遺物觀察表	109
第36表	第21号住居跡出土遺物觀察表	55	第73表	第37号住居跡出土遺物計量表	110
第37表	第21号住居跡出土遺物計量表	55	第74表	第38号住居跡出土遺物計量表	110
第38表	第18号住居跡出土遺物觀察表	59·60	第75表	第1号掘立柱建物跡出土遺物計量表	111
第39表	第18号住居跡出土遺物計量表	60	第76表	第2号掘立柱建物跡出土遺物計量表	113
第40表	第19号住居跡出土遺物觀察表	61	第77表	第3号掘立柱建物跡出土遺物計量表	114
第41表	第19号住居跡出土遺物計量表	63	第78表	第4号掘立柱建物跡出土遺物計量表	115
第42表	第20号住居跡出土遺物觀察表	64	第79表	第5号掘立柱建物跡出土遺物計量表	116
第43表	第20号住居跡出土遺物計量表	64	第80表	第6号掘立柱建物跡出土遺物計量表	117
第44表	第22号住居跡出土遺物觀察表	67	第81表	第7·18号掘立柱建物跡出土遺物計量表	118
第45表	第22号住居跡出土遺物計量表	68	第82表	第8号掘立柱建物跡出土遺物計量表	119
第46表	第23·24号住居跡出土遺物觀察表	72·73	第83表	第10号掘立柱建物跡出土遺物計量表	121
第47表	第23·24号住居跡出土遺物計量表	73	第84表	第11号掘立柱建物跡出土遺物計量表	122
第48表	第25号住居跡出土遺物觀察表	74·76·77	第85表	第15号掘立柱建物跡出土遺物計量表	124
第49表	第25号住居跡出土遺物計量表	77	第86表	第16号掘立柱建物跡出土遺物計量表	125
第50表	第26号住居跡出土遺物計量表	77	第87表	掘立柱建物跡出土遺物觀察表	127
第51表	第26号住居跡出土遺物觀察表	79	第88表	溝跡出土遺物觀察表	137

第89表	土壌一覧表	144
第90表	土壌出土遺物観察表	145
第91表	柱穴出土遺物観察表	146

新田遺跡A区

第95表	第1号住居跡出土遺物計量表	153
第96表	第1号住居跡出土遺物観察表	154
第97表	第2号住居跡出土遺物計量表	155
第98表	第2号住居跡出土遺物観察表	159
第99表	第3号住居跡出土遺物観察表	162・165
第100表	第3号住居跡出土遺物計量表	166
第101表	第4号住居跡出土遺物観察表	166
第102表	第4号住居跡出土遺物計量表	167
第103表	第5号住居跡出土遺物観察表	168
第104表	第5号住居跡出土遺物計量表	168
第105表	第6号住居跡出土遺物観察表	168・171
第106表	第6号住居跡出土遺物計量表	171
第107表	第7号住居跡出土遺物観察表	173

新田遺跡B区

第120表	第1号住居跡出土遺物観察表	187・188
第121表	第1号住居跡出土遺物計量表	189
第122表	第2号住居跡出土遺物計量表	193
第123表	第2号住居跡出土遺物観察表	195
第124表	第3号住居跡出土遺物観察表	197・198
第125表	第3号住居跡出土遺物計量表	198
第126表	第4号住居跡出土遺物観察表	199
第127表	第4号住居跡出土遺物計量表	199

第92表	性格不明遺構出土遺物観察表	147
第93表	中世の出土遺物観察表	150
第94表	グリッド出土・表面採集遺物観察表	150

第108表	第7号住居跡出土遺物計量表	173
第109表	第8号住居跡出土遺物観察表	175
第110表	第8号住居跡出土遺物計量表	175
第111表	第9号住居跡出土遺物観察表	176・177
第112表	第9号住居跡出土遺物計量表	178
第113表	第10号住居跡出土遺物観察表	179・181
第114表	第10号住居跡出土遺物計量表	181
第115表	第11号住居跡出土遺物観察表	181
第116表	第11号住居跡出土遺物計量表	182
第117表	第12号住居跡出土遺物観察表	183
第118表	第12号住居跡出土遺物計量表	184
第119表	柱穴出土遺物観察表	184
第128表	第5号住居跡出土遺物観察表	200
第129表	第5号住居跡出土遺物計量表	200
第130表	第6号住居跡出土遺物計量表	201
第131表	第8号住居跡出土遺物観察表	201
第132表	第8号住居跡出土遺物計量表	201
第133表	土壌出土遺物観察表	206
第134表	土壌一覧表	206
第135表	柱穴新旧対照表	209

写真図版目次

熊野遺跡B区

図版1	熊野遺跡全景 熊野遺跡B区全景
図版2	熊野遺跡B区全景
図版3	熊野遺跡B区全景
図版4	熊野遺跡B区全景
図版5	第1号住居跡 第3・10号住居跡

	第4・6号住居跡 第5号住居跡・カマド
図版6	第5号住居跡 第7号住居跡
図版7	第8号住居跡 第9号住居跡 第11号住居跡

- 第12号住居跡
- 図版8 第13号住居跡
第14号住居跡
第8・12・15号住居跡
第15号住居跡
- 図版9 第15号住居跡
第16号住居跡
第18号住居跡・カマド
- 図版10 第16号住居跡
第18・19号住居跡
第19号住居跡・第8号掘立柱建物跡
第19号住居跡
- 図版11 第20号住居跡
第16・21号住居跡・第10号掘立柱建物跡
第16・21号住居跡
第22号住居跡
- 図版12 第23・24号住居跡
第23号住居跡遺物出土状況
第25号住居跡掘り方
第26号住居跡・掘り方・カマド
- 図版13 第27号住居跡掘り方・カマド遺物出土状況
第28号住居跡掘り方
第29・30号住居跡
第29号住居跡遺物出土状況
第30号住居跡遺物出土状況
- 図版14 第31号住居跡・遺物出土状況
第31号住居跡カマド遺物出土状況
第32号住居跡・遺物出土状況
第33号住居跡
- 図版15 第34号住居跡遺物出土状況
第35・36号住居跡・遺物出土状況
第35号住居跡・掘り方
- 図版16 第36号住居跡・掘り方・ビット・遺物出土状況
第36号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版17 第37号住居跡遺物出土状況
第38号住居跡遺物出土状況
- 図版18 第3号住居跡・第1号掘立柱建物跡
第1～5号掘立柱建物跡
- 図版19 第6・7号掘立柱建物跡
第6～11号掘立柱建物跡
- 図版20 第12・15・16・18号掘立柱建物跡
第1号掘立柱建物跡・第1号柵列
第2号・第3号柵列
- 図版21 第1号・第8号溝跡
第8～10号・第9号溝跡
第9号溝跡北側道路硬化面
- 図版22 第8～10号・第12号・第10号溝跡
第17・20・第21号・第22号・第25号土城
- 図版23 第2号・第3号・第4号土城
第5～7・9～15号土城
熊野遺跡B区全景
- 図版24 第2号住居跡出土遺物
第4号住居跡出土遺物
第5号住居跡出土遺物
- 図版25 第5号住居跡出土遺物
- 図版26 第5号住居跡出土遺物
- 図版27 第6号住居跡出土遺物
第7号住居跡出土遺物
- 図版28 第9号住居跡出土遺物
第10号住居跡出土遺物
第11号住居跡出土遺物
第12号住居跡出土遺物
第13号住居跡出土遺物
- 図版29 第15号住居跡出土遺物
- 図版30 第16号住居跡出土遺物
- 図版31 第18号住居跡出土遺物
- 図版32 第19号住居跡出土遺物
- 図版33 第20号住居跡出土遺物
第22号住居跡出土遺物
第23号住居跡出土遺物
第26号住居跡出土遺物
- 図版34 第27号住居跡出土遺物
- 図版35 第29号住居跡出土遺物

- 第30号住居跡出土遺物
第33号住居跡出土遺物
図版36 第31号住居跡出土遺物
第32号住居跡出土遺物
第35号住居跡出土遺物
第36号住居跡出土遺物
図版37 第37号住居跡出土遺物
図版38 第34号住居跡出土遺物
第35号住居跡出土遺物
第36号住居跡出土遺物
第37号住居跡出土遺物

新田遺跡A区

- 図版43 新田遺跡全景
図版44 新田遺跡A区全景・調査風景
図版45 新田遺跡A区全景
図版46 第1号住居跡
第2号住居跡・カマド・遺物出土状況
第3号住居跡
図版47 第3号住居跡カマドNo.1 遺物出土状況
第3号住居跡カマドNo.1・2・3
第4・5号住居跡
第6号住居跡
図版48 第6号住居跡カマド

新田遺跡B区

- 図版53 新田遺跡B区全景
図版54 新田遺跡B区全景
図版55 新田遺跡B区全景・ビット群
図版56 第1号住居跡・遺物出土状況
第1号住居跡カマド・カマド袖内埋甕
第1号住居跡床下土城断面
図版57 第2号住居跡・掘り方・遺物出土状況
第3号住居跡・掘り方
図版58 第3号住居跡遺物出土状況
第4号住居跡・遺物出土状況
第5号住居跡
第6号住居跡遺物出土状況

- 図版39 第25号住居跡出土遺物
第30号住居跡出土遺物
第35号住居跡出土遺物
第1掘立柱建物跡出土遺物
性格不明遺構出土遺物
図版40 第1号住居跡出土尖頭器
第5号住居跡出土遺物
第13号掘立柱建物跡出土遺物
グリッド出土須恵器
図版41 須恵器
図版42 須恵器

- 第7号住居跡
第8号住居跡・カマド・土城
第9号住居跡
図版49 第11号住居跡
第13号住居跡・カマド
第14号住居跡
第10号住居跡・カマド
図版50 第2号・第3号・第5号・第6号住居跡出土遺物
図版51 第2号・第3号・第6号住居跡出土遺物
図版52 第6号・第10号・第12号住居跡出土遺物
図版59 第8号住居跡掘り方
第10号住居跡
第5・6号土城
第8・9・12・16号土城
第2・3・4号土城
取付道南側ビット群
図版60 第1号・第2号・第3号住居跡出土遺物
図版61 第3号・第4号・第5号住居跡出土遺物
図版62 第1号・第2号・第3号住居跡出土遺物
土鍾
図版63 鉄製品・石器
図版64 鉄製品X線写真

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県は関東地方の中西部に位置し、県全域が都心から100kmの圏内に含まれる。県では快適でうまいのある生活空間の形成のために、道路網の整備を進めている。「県内1時間道路網構想」を推進し、高速道路、地域高企画道路、インターチェンジにアクセスする道路、都市内街路などの、幹線道路から生活道路に至るまで、体系的な道路網の整備計画である。一般県道針ヶ谷岡線の建設もこうした事業の一つである。

道路建設課から一般県道針ヶ谷岡線の建設に先立ち、平成5年10月4日付け道建第282号で、文化財の所在及びその取り扱いについて、文化財保護課長あて照会があった。それに対して文化財保護課は、平成5年10月29日付け教文第723号で、概ね次のような回答をした。

1 埋蔵文化財の所在

工事予定地内には、次の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在します。

名称	種別	時代	所在地
熊野遺跡 (63-017)	集落跡	奈良・平安時代	岡部町大字岡地内
新田遺跡 (63-143)	集落跡	奈良・平安時代	岡部町大字岡地内

2 取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合は、

事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づき、文化庁長官あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。

なお、発掘調査の実施については当課と別途協議してください。

その後、道路建設課と文化財保護課との間で取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であり、記録保存の措置を講ずることになった。

発掘調査の実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、道路建設課・文化財保護課の三者で工事日程、調査計画・調査期間などについて協議し、発掘調査を実施することとした。

文化財保護法第57条3の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県知事から提出され、第57条1項の規定による発掘調査届が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。発掘調査に係わる通知は以下のとおりである。

熊野遺跡

調査期間：平成6年11月1日～平成7年1月31日
発掘届：平成6年12月15日付け教文第2-150号
調査期間：平成8年10月1日～平成9年1月31日
発掘届：平成8年10月23日付け教文第2-140号

新田遺跡

調査期間：平成7年9月1日～平成7年9月30日
発掘届：平成7年9月8日付け 教文第2-105号
調査期間：平成8年10月1日～平成9年1月31日
発掘届：平成8年10月23日付け教文第2-139号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

本事業は、岡部町岡と同町針ヶ谷を結ぶ県道の整備事業に伴う発掘調査である。この内、県道廻川普濟寺線と交差する北側部分の岡部町大字岡字熊野地内の道路整備工事に伴い、熊野遺跡（B区）の発掘調査を、南側部分の岡部町大字岡字新田地内の道路整備工事に伴い、新田遺跡の発掘調査を実施した。発掘調査期間は、平成6年11月1日から平成9年1月31日までの間に断続的に実施し終了した。

熊野遺跡（B区）

熊野遺跡B区は、平成6年度と平成8年度の二度にわたって発掘調査を実施した。

第1回目は平成6年11月1日から平成7年1月31日までの3ヶ月間の事業であった。調査面積は1,300㎡である。検出された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡16棟、ピット、中・近世の溝跡3条、土塀4基である。

平成6年11月上旬、調査事務所を設置し、発掘調査の準備を行う。調査区域の縄張りを行い、併せて、重機を導入し表土を掘削した。中旬、廃土にはシートをかぶせ防塵対策を施した。安全対策のためバリケードを置き、松杭により調査区域に柵を施した。また、雨水の流れ込みによって隣接する畑地の耕作土が流出するのを防ぐため土嚢による土止め対策を行った。下旬、調査区内に基準点測量を行い準備を整えた。

12月上旬、遺構確認を行い、調査区南側の住居跡・土塀・溝跡から順次調査に着手した。第1号住居跡から番号を付し調査を進める。土層の堆積状況や遺物出土状況を図化し、記録保存を行った。中旬、ピット列や掘立柱建物跡や中世の堀跡を調査した。下旬、調査区中央部から近世の土塀群を検出した。

1月上旬、調査区北側の遺構に着手、第16号住居跡、第10号掘立柱建物跡、第32・33・34号土塀を調査する。中旬、調査区北側にピット群を検出し調査する。下旬、全ての遺構を完掘し、遺跡全体の精査を行い、全景写真を撮影した。また、ラジコンヘリコプターによる空

中写真撮影を実施し、調査を終了した。調査区の埋め戻し作業を行い、調査事務所を撤収し、本事業を終了した。

第2回目は平成8年10月1日から隣接する新田遺跡B区と熊野遺跡B区の調査であり、平成9年1月31日までの4ヶ月間の事業であった。調査面積は新田遺跡B区が500㎡と熊野遺跡B区1,500㎡である。

今回の調査は、平成6年度に調査を実施した熊野遺跡B区の南側に隣接した地区を対象とした。検出された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡17軒、掘立柱建物跡2棟、ピット、中・近世の溝跡14条、土塀6基である。調査以前は墓地や宅地に利用されていたため、遺構の遺存状態はあまり良好ではなかった。

平成8年10月、新田遺跡B区の調査着手に伴い、併せて、発掘調査の準備を行う。調査区域の縄張りを行い、重機を導入し表土を掘削した。

11月、熊野遺跡B区の調査に着手する。遺構確認を行い、調査区北側の住居跡・土塀・溝跡から順次調査に着手した。遺構番号は平成6年度の熊野遺跡B区の続きとし、第22号住居跡、第15号掘立柱建物跡、第36号土塀から付し、土層の堆積状況や遺物出土状況を図化し、記録保存を行った。

12月、調査区中央部にて、第35～37号住居跡に着手。調査区に並行して南北に走る溝跡第12～14号溝跡を調査する。調査区南側に東西に走る中・近世の堀跡を検出し調査する。

1月、全ての遺構を完掘し、遺跡全体の精査を行い、全景写真を撮影した。また、遺構平面図を作図し、調査を終了した。調査区の埋め戻し作業を行い、調査事務所を撤収し、本事業を終了した。

新田遺跡（A・B区）

新田遺跡は、平成7年度（A区）と平成8年度（B区）の二度にわたって発掘調査を実施した。

第1回目の調査区は便宜的にA区と呼称し、平成7年9月1日から平成7年9月30日までの1ヶ月間の事業であった。調査面積は500㎡である。検出された遺

構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、中・近世の竪穴状遺構1基、ピットである。

平成7年9月上旬、ユニットハウスの調査事務所兼器材庫を設置し、発掘調査の準備を行う。調査区域の縄張りを行い、併せて、重機を導入し表土を掘削した。松杭により調査区域に柵を施した。調査区内に基準点測量を行った。中旬、遺構確認を行い、調査に着手した。第1号住居跡から番号を付し調査を進める。土層の堆積状況や遺物出土状況を図化し、記録保存を行った。下旬、全ての遺構を完掘し、遺跡全体の精査を行い、全景写真を撮影した。また、遺構平面測量を行い調査を終了した。調査区の埋め戻し作業を行い、調査事務所を撤収し、本事業を終了した。

第2回目の調査区は新田遺跡B区と呼称した。前回調査したA区の北側にあたる。調査期間は平成8年10月1日から平成8年10月31日までの1ヶ月間の事業であった。調査面積は500㎡である。

今回の調査は、平成7年度に調査を実施した新田遺跡A区の北側にあたるが、中間は掘乱によって遺構の破壊が著しく調査を断念した。このため、掘乱地区約50mを挟んでB区が位置する。新田遺跡B区は北側に県道奥川普濟寺線を挟んで熊野遺跡B区と隣接する。

検出された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡1棟、ピット、中・近世の土城25基である。調査以前は宅地に利用されていたため、遺構の遺存状態はあまり良好ではなかった。

平成8年10月、調査区が民家に隣接するため簡単な家屋調査を行い調査に着手する。ユニットハウスの調査事務所および器材庫を設置し、発掘調査の準備を行う。調査区域の縄張りを行い、併せて、重機を導入し表土を掘削した。松杭により調査区域に柵を施した。調査区内に基準点測量を行った。中旬、遺構確認を行い、調査に着手した。第1号住居跡から番号を付し調査を進める。土層の堆積状況や遺物出土状況を図化し、記録保存を行った。下旬、全ての遺構を完掘し、遺跡全体の精査を行い、全景写真を撮影した。また、遺構平面測量を行い調査を終了した。本事業の一部を終了

し、引き続き、熊野遺跡B区の調査に移行した。

(2) 整理・報告書作成

整理・報告書作成事業は平成11年7月1日から平成12年3月31日までの9ヶ月間実施した。

7月、熊野遺跡B区および新田遺跡A・B区の整理事業を開始する。出土遺物の水洗・注記の後、遺物の接合作業を行う。

8月、遺物は復元作業の終了した住居跡から器種ごとに分類し、破片数と重量を計量した。遺構図は住居跡から平面図と断面図を合わせ第二原図の作成。遺物は計量が終了したのから、遺物実測を開始した。遺構図は第二原図の完成したのから土層注記の入力作業を行った。

9月、遺物実測を継続。住居跡の第二原図作成を進めた。遺物接合作業、遺物計量作業をほぼ終了。

10月、遺物実測を継続し、掘立柱建物跡の第二原図作成を進めた。ピット・土城の第二原図の作成を進めた。

11月、第二原図が完成した遺構図および、遺物図版のトレース作業を行い、遺物観察表のデータ入力を行う。遺物撮影のための土器に石膏を入れ色塗りを行い、遺物の写真撮影を行う。また、航空写真および遺構写真の焼き増しを行う。

12月、委託写真撮影を行う。図版にインレタ・スクリーントーンを貼り込み仕上げる。遺物観察表および遺物計量表を作成。遺構写真図版を作成する。遺物整理の成果をもとに顔料分析および胎土分析を委託する。

1月、全体図、周辺遺跡分布図を作成、遺構・遺物図版の完成。遺物写真図版を作成する。原稿執筆を進め、割付・編集作業を行い、報告書印刷の起案を行う。下旬には、報告書印刷業者の入札を行う。

2月、遺物収蔵の整理。報告書の校正作業を行う。

3月、遺物収蔵の整理。報告書の校正作業を行い、末日に本書を刊行し、県道針ヶ谷岡線建設に伴う熊野遺跡B区、新田遺跡A・B区の整理・報告書刊行事業を終了した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査(平成6～8年度)

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 栃原 副雄(H6)
吉川 國男(H7・8)

常務理事兼管理部長 加藤 敏明(H6)
新井 秀直(H7)
稲葉 文夫(H8)

理事兼調査部長 小川 良祐

<管理部>

庶務課長 及川 孝之(H6・7)
依田 透(H8)

主 査 市川 有三(H6・7)
西沢 信行(H8)

主 事・主 任 長 滝 美智子

主 事・主 任 菊 池 久

専門調査員兼経理課長 関野 栄一

主 任 江 田 和 美

主 事・主 任 福 田 昭 美

主 事・主 任 腰 塚 雄 二

<調査部>

副 部 長 高 橋 一 夫

調査第一課長 坂野 和 信(H7・8)

調査第二課長 大 和 修(H6)

主任調査員 浅野 晴 樹(H6)

主任調査員 磯 崎 一(H8)

主任調査員 富田 和 夫(H7・8)

調査員 上野 真由美(H6)

調査員 栗 岡 潤(H7)

(2) 整理事業(平成11年度)

理 事 長 荒 井 桂

副 理 事 長 飯 塚 誠一郎

常務理事兼管理部長 広 木 卓

<管理部>

管理部副部長兼経理課長 関野 栄一

庶務課長 金 子 隆

主 査 田 中 裕 二

主 任 江 田 和 美

主 任 長 滝 美智子

主 任 福 田 昭 美

主 任 腰 塚 雄 二

主 任 菊 池 久

<資料部>

資 料 部 長 高 橋 一 夫

専門調査員兼資料部副部長 石 岡 憲 雄

専 門 調 査 員 市 川 修

統 括 調 査 員 赤 熊 浩 一

遺構名	調査面積	調査期間	主な検出遺構	発掘担当者
熊野遺跡B区	1300㎡	平成6年11月1日～ 平成7年1月31日	竪穴住居跡21軒 土壇跡4基 掘立柱建物跡16棟 溝跡3条他	浅野 晴 樹 上野 真由美
熊野遺跡B区	1500㎡	平成8年10月1日～ 平成9年1月31日	竪穴住居跡17軒 土壇跡6基 掘立柱建物跡2棟 溝跡14条	磯 崎 一 富田 和 夫
新田遺跡A区	500㎡	平成7年9月1日～ 平成7年9月30日	竪穴住居跡12軒	富田 和 夫 栗 岡 潤
新田遺跡B区	500㎡	平成8年10月1日～ 平成8年10月31日	竪穴住居跡8軒 土壇跡25基 掘立柱建物跡1棟	磯 崎 一 富田 和 夫

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

熊野遺跡は、埼玉県大里郡岡部町大字岡字熊野に所在し、新田遺跡は埼玉県大里郡岡部町大字岡字新田に所在する。遺跡の所在する岡部町は南東から北西方向に上越新幹線、JR高崎線、中仙道、国道17号線が連なるように伸び、交通の要衝である。本町は本庄市、深谷市、寄居町、美里町に囲まれている。

両遺跡は岡部駅の北西に広がり、熊野遺跡の範囲は南北750m、東西1400mである。新田遺跡の範囲は南北300m、東西320mであり、両遺跡は隣接する。

遺跡は、櫛引台地の北端に立地し、約100m程北側には、妻沼低地を望み比高差20mの崖線が形成されている。この崖線下には、岡部町川を源流とする福川が東流し行田市坂巻で利根川に注ぐ。

荒川以北の埼玉県北部地域は、第1図に示されるように、上武山地、児玉丘陵・松久丘陵・本庄台地・櫛引台地・妻沼低地に区分される。西は神流川、東に利根川が流れる。全体的な地形の傾斜は、南西から北東に向け低くなる。河川は、上武山地を分水嶺とし、南

面は荒川に注ぐが、北面は利根川に注ぐ。本地域の櫛引台地は、北側に小山川、志戸川、藤治川が傾斜に沿って北東に流れ、利根川に注ぎ、南側には平坦な台地が広がる。北側は妻沼低地を望み、西側は上武山地が連なる。

熊野遺跡・新田遺跡は、志戸川右岸に広がる櫛引台地の北端に位置する。

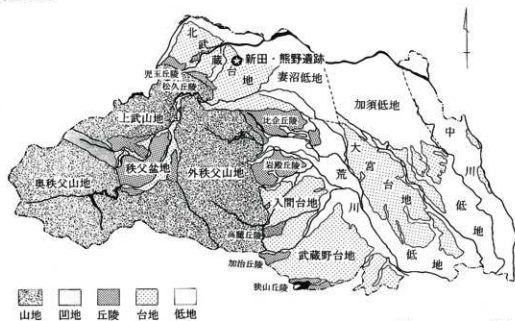
台地の北東側は利根川の開析によって形成された妻沼低地が広がる。台地との境は上里町・本庄市・岡部町・深谷市にまたがりほぼ直線的に段丘を形成する。崖線の直下には湧水線が存在する。現在の、高崎線や国道17号線はこの台地縁辺に敷設された幹線である。

2. 歴史的環境

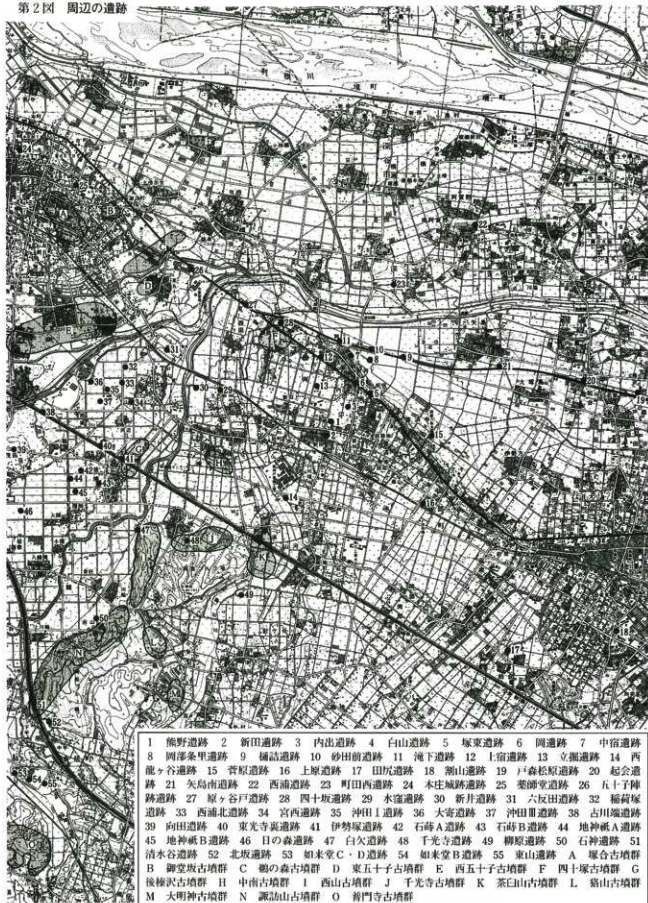
本地域は数多くの遺跡が所在する。特に、古墳時代以降の遺跡は調査例も多く歴史的環境の検討が行われている。

古墳時代から奈良時代への変化は遺跡にも現れる。これまで、志戸川や小山川によって形成された自然堤

第1図 埼玉の地形



第2図 周辺の遺跡



- 1 熊野遺跡 2 新田遺跡 3 内出遺跡 4 白山遺跡 5 塚東遺跡 6 岡遺跡 7 中宿遺跡
 8 岡塚桑甲遺跡 9 極詰遺跡 10 砂田前遺跡 11 滝下遺跡 12 上宿遺跡 13 立瀬遺跡 14 西
 龍ヶ谷遺跡 15 菅原遺跡 16 上原遺跡 17 田尻遺跡 18 瀬山遺跡 19 戸森松原遺跡 20 起会遺
 跡 21 矢島南遺跡 22 西浦遺跡 23 町田西遺跡 24 本庄城跡遺跡 25 樂師堂遺跡 26 五十子陣
 跡遺跡 27 原ヶ谷遺跡 28 四十坂遺跡 29 水窪遺跡 30 新井遺跡 31 六反田遺跡 32 稲荷塚
 遺跡 33 西浦北遺跡 34 宮西遺跡 35 沖田I遺跡 36 大寄遺跡 37 沖田II遺跡 38 古川端遺跡
 39 向田遺跡 40 東光寺裏遺跡 41 伊勢塚遺跡 42 石碓A遺跡 43 石碓B遺跡 44 地神坂A遺跡
 45 地神坂B遺跡 46 日の森遺跡 47 白欠遺跡 48 千光寺遺跡 49 柳原遺跡 50 石神遺跡 51
 清水谷遺跡 52 北坂遺跡 53 如來堂C・D遺跡 54 如來堂B遺跡 55 東山遺跡 A 堰合古墳群
 B 御堂坂古墳群 C 鶴の森古墳群 D 東五十子古墳群 E 西五十子古墳群 F 四十塚古墳群 G
 後椋沢古墳群 H 中南古墳群 I 西山古墳群 J 千光寺古墳群 K 茶臼山古墳群 L 霜山古墳群
 M 大明神古墳群 N 諏訪山古墳群 O 新門寺古墳群

防や微高地に営まれていた集落は、広大な台地の開発とともに集落の占地を大きく変化させると考えられる。

古墳時代の集落は、低地帯の自然堤防上に大規模な集落を形成していた。砂田前遺跡をはじめとし周辺には集落が広範囲に展開していたものと考えられる。岡部条里遺跡、戸森前遺跡や土敷免遺跡などはそうした集落である。また、古墳群は、台地や丘陵上に形成され、四十塚古墳群、白山古墳群などが知られる。

こうした景観が古代律令社会のなかでどのような変化をしたのか解明することが重要である。本遺跡は古代において、武蔵国榛沢郡にあたる。榛沢郡は、新居・榛沢・鵜形・藤田・餘戸の5郷からなる小郡であり、熊野遺跡・新田遺跡は、現在の岡部町岡に所在し、武蔵国榛沢郡榛沢郷にあたると思われる。

これまでの、発掘調査の成果をもとにすると、榛沢郡の役所が置かれた地は現在の岡地区である。この地は、簡引台地の緑辺部にあたり、台地緑辺に中宿遺跡、滝下遺跡、広大な台地平坦部には熊野遺跡、岡庭寺が位置する。中宿遺跡は都衙正倉と考えられており、整然と建物跡が並ぶ。滝下遺跡からは大溝跡や鍛冶工房跡が検出された。また、熊野遺跡は政庁部分の確認はされていないが、大規模な建物跡、土橋をもつ大溝跡、道路状遺構などが確認され、陶製仏殿、畿内産暗文土器、陶杖が出土している。7世紀後半には榛沢郡衙の施工が開始されたと考えられている。この地は、古墳時代の遺構の検出は見られず、少なくともこの地に開発が行われたのは熊野遺跡第35号住居跡に認められる土師器の有段口縁模倣灰の段階からである。こうした住居跡の段階は点的ではあるが数件認められ、初期的段階での入植的色彩が推定され新しき開拓集団の存在を窺わせる。この段階は砂田前遺跡の報告の中で第Ⅴ期とした段階であり、砂田前遺跡にも数件ではあるが住居跡を検出している(1998佐藤)。また、低地部では、岡部条里遺跡の発掘調査が行われ、施工時期は明らかではないが、条里遺構が検出された。少なくとも古代律令制の施策がこの地を中心として7世紀後半にはおよんでいたことを物語る。

台地上には官衙を中心に熊野遺跡をはじめ、白山遺跡、内出遺跡、新田遺跡など大規模集落が形成され、7世紀末には周辺の景観を一変させた。

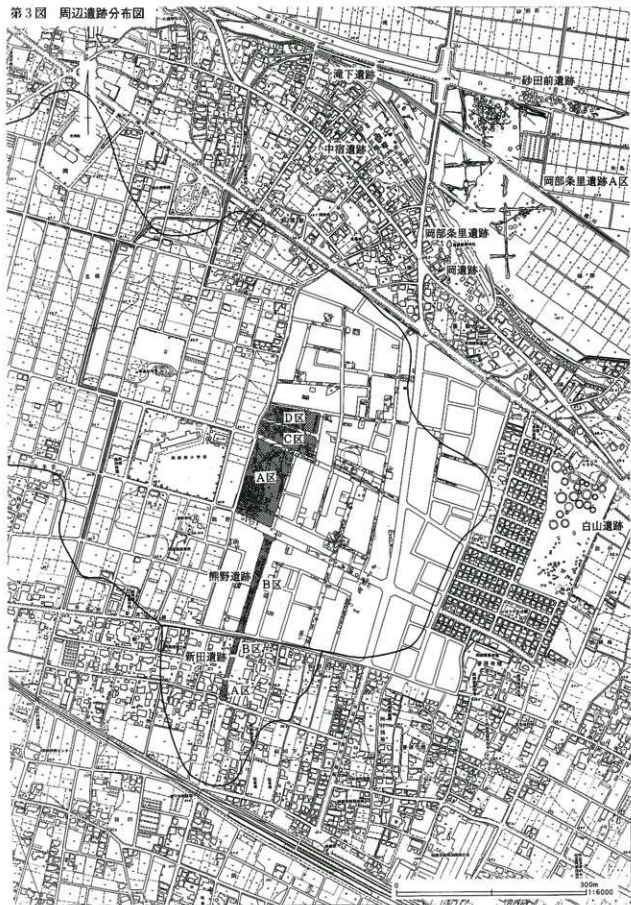
榛沢郡内には、生産遺跡も多く認められる。西部の丘陵地帯には木野窯跡群が存在し、古墳時代後期から奈良・平安時代にいたる窯跡が広がっている。木野遺跡では、古墳時代後期の窯跡3基、古墳時代後期から奈良・平安時代の灰原跡、平安時代の窯跡1基、奈良・平安時代の工房跡などが調査され、須恵器生産の様相が明らかにされた。7世紀後半段階になると、小型の坏蓋のセットや盤、高盤、瓶類など木野産の須恵器が、熊野遺跡をはじめ新田遺跡、宮西遺跡、内出遺跡、白山遺跡などから主体的に出土する。木野産須恵器は榛沢郡内や荒川流域はもとより、武蔵国内に供給が認められている。

土師器は古墳時代以来伝統的に生産されているが、新井遺跡では土師器焼成遺構が6基確認されている。

平安時代になると、相次いで製鉄遺跡が確認され、製鉄技術がこの地にも導入されたことがわかる。榛沢地区の岡部工業団地造成に伴って宮西遺跡を調査した際に、製鉄炉跡を検出した。また、堅穴住居跡からは小金銅仏が出土している。隣接する西浦北遺跡からも小型の製鉄炉跡が14基検出され、緑釉手付瓶、灰釉瓶が検出された。岡地区でも中宿遺跡からは、鉄滓・羽口が出土し、最近になって製鉄炉跡が確認されている。また、菅原遺跡では縦型炉を検出し、多量の銕型も出土し、獸脚銕型・容器銕型などが見られ、仏具用品の生産を行っていたと考えられる。こうした鉄生産は微地形の起伏を利用し、小型の縦型炉で行われている。このように榛沢郡では平安時代になって、製鉄産が盛んであったと考えられる。武蔵では、猿貝北、大山、台耕地遺跡など9世紀後半頃から元荒川流域に沿って鉄製産が行われる。これとは、形態や規模・占地などが異なった小規模な縦型炉による鉄製産が榛沢地域で認められ、製鉄技術の系譜が異なると考えられる。

中世の遺構は溝跡と道路状遺構などを検出した。平安時代末期から中世になると、この地方は、中世武

第3図 周辺遺跡分布図



士団の発生した地として知られ、主に、武蔵七党の丹・児玉・猪俣党の活躍した地域である。しかし、考古学的にはいまだ不明な点も多く、文献や伝承によるところが多い。

岡地区の熊野遺跡37次では、稲葉研状の溝跡や土壇墓、竪穴状遺構を検出した。また、白山遺跡でも館跡が検出されている。善濟寺地区には、小野姓猪俣党に属す岡部六弥太忠澄の墓が所在する(第62図)。

宮西遺跡の南には、丹党の榛沢六郎成清の墓と伝える地があり、この一帯を「蔵屋敷」と称し、成清の館跡との伝承がある。また、川辺館跡は、南北約130m、

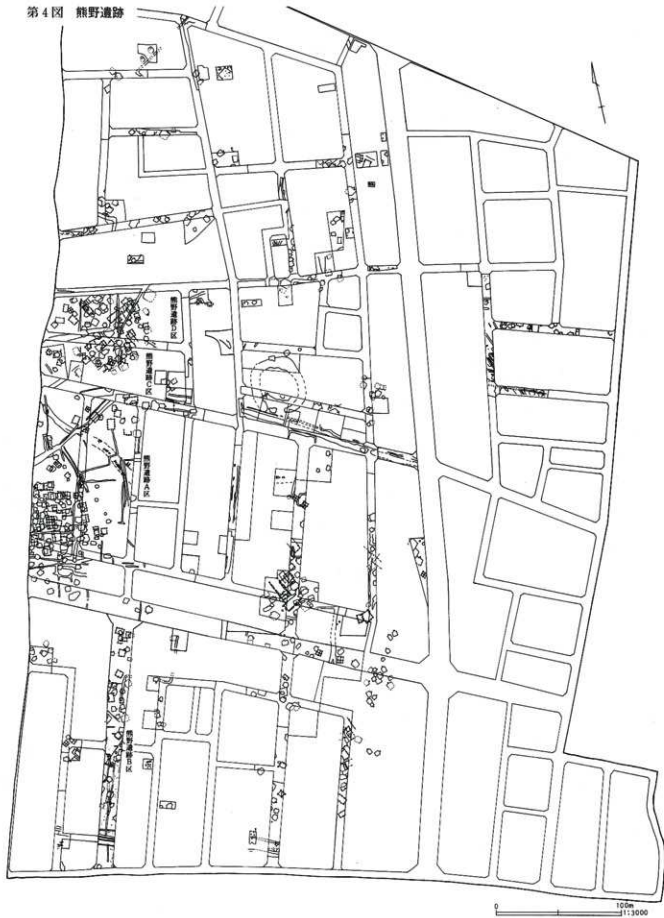
東西約100mの複郭構造で、堀・土塁が二重に巡る。堀の調査では15世紀以後のかかわりなどが出土している。ここも成清の館跡との伝承がある。六反田遺跡では、南北約50m以上、東西約60mの館跡を検出し、堀状遺構に囲まれた建物跡や井戸跡を検出した。

榛沢六郎成清や岡部六弥太忠澄は、源頼朝の父義朝に仕え保元・平治の乱(1156・1159年)を記した『保元物語』にその名が見られ、頼朝の拳兵、一ノ谷の合戦、奥州征伐などでも活躍したことが『吾妻鏡』などに記されている。彼らはこの地を本拠地とし館を構えていた。

参考文献

- 磯崎 一 1989 『新田裏・明戸東・原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 岩瀬 謙 1991 『樋詰・砂田前遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第102集
 大田博之 1990 『旭・小島古墳群小島北浦地区発掘調査報告書』本庄市遺跡調査会報告 第1集
 木戸春夫 1998 『沖田Ⅰ/沖田Ⅱ/沖田Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第231集
 栗原文蔵他 1977 『水窪遺跡』岡部町教育委員会
 鯉持和夫 1993 『ウツギ内・砂田・柳町遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第126集
 鯉持和夫 1995 『森下・戸森松原・起会遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第148集
 古池晋祿 1990 『小台遺跡』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第244集
 古池晋祿 1998 『上唐沢地区遺跡群』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第54集
 佐藤康二他 1998 『砂田前遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第198集
 佐藤忠雄 1978 『後神沢遺跡』岡部町教育委員会
 佐藤忠雄 1979 『大寄B遺跡・西浦北遺跡』岡部町教育委員会
 澤出晃越 1985 『割山遺跡』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集
 篠崎 潔 1990 『皂樹原・楡下遺跡』皂樹原・楡下遺跡調査会報告書 第2集
 鳥羽政之 1987 『上原遺跡』岡部町遺跡調査会報告書
 鳥羽政之他 1991 『新田遺跡』岡部町遺跡調査会発掘調査報告書 第3集
 鳥羽政之 1995 『中宿遺跡』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書 第1集
 鳥羽政之 1997 『中宿遺跡』岡部町遺跡調査会発掘調査報告書 第5集
 鳥羽政之他 1997 『熊野遺跡』岡部町遺跡調査会報告書 第6集
 鳥羽政之 1997 『滝下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第2集
 利根川章彦 1998 『御林下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第223集
 利根川章彦 1999 『西富田・四方田条里遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第224集
 知久裕昭 1998 『常磐町東遺跡』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第57集
 中村倉司 1980 『風徳神社前遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書 第39集
 西口正純 1994 『矢島南遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第149集
 橋本 勉 1999 『戸崎前遺跡/薬師堂根遺跡』埼玉県埋蔵文化財報告書 第218集
 伴瀬宗一 1996 『今井川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第178集
 中村重之 1994 『原ヶ戸遺跡』岡部町遺跡調査会報告書 第4集
 平田重之 1998 『上宿遺跡』岡部町遺跡調査会発掘調査報告書 第7集
 宮本直樹他 1998 『岡部条里遺跡』岡部町埋蔵文化財調査報告書 第3集
 村田章人 1993 『原ヶ戸・滝下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第127集

第4図 熊野遺跡



III 遺跡の概要

1. 調査の方法

県道針ヶ谷岡線の発掘調査は、熊野遺跡と新田遺跡が調査対象となった。

熊野遺跡は、岡部町岡中央土地区画整理事業によってすでに岡部町教育委員会や岡部町遺跡調査会にて発掘調査が進められており第1次調査から現在は第99次調査におよぶ。このため、同一遺跡の調査であることから、当事業団による発掘調査は地点名A・B・C・D区と呼称した。平成6年度事業において岡部町岡中央団地事業地内の熊野遺跡をA区とし、本書で報告の県道針ヶ谷岡線部分をB区、さらに、A区北側の平成7年度に実施した岡部町岡中央団地事業地内の熊野遺跡をC・D区とそれぞれ呼称した(第4図)。

新田遺跡は、岡部町教育委員会によって宅地造成に伴う発掘調査が実施されており、すでに第1次から第2次調査まで進められている。このため、熊野遺跡と同様に、県道針ヶ谷岡線の用地内については平成7年度調査部分を新田遺跡A区、平成8年度調査部分を新田遺跡B区と呼称した。さらに、A区とB区の中間地点は試掘調査の結果、掘乱が著しく発掘調査の実施は断念した。

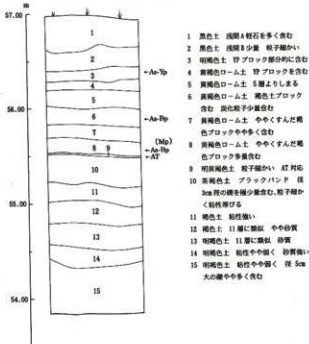
グリッドは熊野遺跡A～D区および新田遺跡A・B区すべてを網羅して設定した。このため、熊野遺跡D区の北西に原点00を設定し、北から南へ0～86まで、西から東へ0～26、グリッド呼称は北南一西東の呼称順とした。

2. 基本層序

熊野遺跡および新田遺跡は掘引台地上に位置し遺跡の立地はほぼ同じである。基本土層は熊野遺跡B区の前9号溝付近(71-9グリッド)において深掘し、土層観察を行った。

地表面から約3.10mまで観察し、土層は16層に分層された。第1層は耕作土を含む表土層で浅間A軽石(AsA, 1783年)を含む。第2層は奈良・平安時代の

第5図 熊野遺跡B区基本土層



遺構を覆う表土層で浅間Bテフラ(As-B, 1108年)を含む。第3層中からは榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)と浅間C軽石(AsC, 4世紀中葉)を含む。第4層は浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約13.14万年前)を含む。第6層は浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.821万年前)を含む。第9層は始良Tn火山灰(AT, 約2.425万年前)に対応する。第10層は榛名箱田テフラ(Hr-HA, 約2.530万年前)を含み示標テフラを確認できた。これらテフラの把握は古環境研究所に委託しテフラ組成分析、テフラ検出分析、屈折率測定の結果による。(付編参照)

3. 遺跡の概要

熊野遺跡・新田遺跡は、これまで古墳遺構の古地として利用されていた台地上に古墳時代末(7世紀後半)、新たに集落を形成した新興遺跡である。その後、継続的に集落は発展し、奈良・平安時代(10世紀前半)までの約300年間ほど堅穴住居跡による生活の足跡を残す。また、中世になると堀跡や館跡などが営まれる。また、土壌腐や火葬墓なども見られる。

第6図 熊野遺跡B区・新田遺跡グリッド網図

